

# 奈良県林業・木材産業振興プラン（案）に関する 政策検討会議 委員意見

## 1 「目標の設定と目指す姿」について

- 事業者を増やすには、林業が「業」として成り立つことが重要であると思う。プランを実施するにあたり生産額の目標値を示せば、川上・川中・川下それぞれ主体的に取り組んでもらいやすい。  
また、このような指標を持つことは、事業の評価をするにあたりチェック項目を充実させることができると思う。

## 2 「林業・木材産業振興に向けた取り組み」について

### (1) 川上（山側）における取り組み

- 県産材生産量を14万8千m<sup>3</sup>から25万m<sup>3</sup>に引き上げる数値目標を掲げているが、その目標を達成することにより労働者雇用の場の拡大につなげられたい。

### (2) 川上・川中・川下をつなぐ取り組み

- 県の職員が、商社的な役割を果たしていくとのことであるので、職員に専門的な勉強をさせ、また、その配置面でも頑張ってもらいたい。
- 県が商社的な役割を果たし、川上、川中、川下の関係者が、共通の目標に向かってお互いに連携して取り組み、推進することについては積極的にやっていただきたい。更に、6年間の計画期間うち、最初の2、3年は、スピードをあげて今後につなげるような取り組みをしていただきたい。

## 3 その他

- 数値目標については、3年経過後に中間の検証をし、結果を議会にも報告するべきである。
- 検証の際、川上・川中・川下の関係者の意見をよく聞く機会を設けてほしい。
- 林業再生とか林材振興の問題は、なかなか難しい問題なので、実施にあたりできるだけ細かく検証してその都度その都度計画に修正を加えていけるようにしておくことが必要である。
- 中間年で中間報告をするとのことだが、問題があると判断すれば、適宜修正していく柔軟性を持ったプランにされたい。
- 3年を目途にされるプランのフォローアップにあっては、PDCAサイクルでされたい。